

# SHOW HEY シネマールーム

★★★★

## テスラ エジソンが恐れた天才

2020年/アメリカ映画  
配給：ショウゲート/103分

2021 (令和3) 年4月3日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督・脚本：マイケル・アルメレイ  
ダ

出演：イーサン・ホーク/カイル・  
マクラ克蘭/イヴ・ヒュー  
ソン/ジム・ガフィガン/エ  
ボン・モス＝バクラック/ハ  
ンナ・グロス/ジョシュ・ハ  
ミルトン/ピーター・グリー  
ン/ジェームズ・アーニア  
ク/レベッカ・ディアン/ド  
ニー・ケシュウオーズ/ルー  
シー・ウォルターズ

### 👁️👁️ みどころ

発明家・エジソンは誰でも知っているが、ニコラ・テスラを知ってる？また、“直流 vs 交流戦争”を知ってる？

本作は『エジソンズ・ゲーム』（19年）で、エジソン、ウェスティングハウスに次ぐ“第3の男”として描かれたテスラを主人公とした伝記映画。

日本では男の甲斐性は飲む・打つ・買うだが、天才・テスラには孤高・異端・狂気の3拍子が揃っていたらしい。そんな男の栄光とは？その没落とは？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■テスラを知ってる？“直流 vs 交流戦争”を知ってる？■□■

今年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』の主人公は渋沢栄一。彼があまり馴染みがないように、本作の主人公、ニコラ・テスラもあまり馴染みのない人物だ。原題は『Tesla』だけなのに、邦題にあえて『エジソンが恐れた天才』というサブタイトルをつけたのはそのためだ。発明王・エジソンの名前は誰でも知っているが、あなたはニコラ・テスラの名前を知ってる？また、エジソンが固執した直流と、ウェスティングハウスとテスラが開発した交流による“直流 vs 交流戦争”を知ってる？

『エジソンズ・ゲーム』（19年）（『シネマ47』149頁）は、エジソンとジョージ・ウェスティングハウスの対決を中心とし、そこにニコラ・テスラが絡むストーリーだったから、『エジソンズ・ゲーム』という邦題がピッタリだったが、原題を『Tesla』とした本作はそうではなく、テスラを主人公にしたテスラの伝記映画だ。

### ■□■同じ伝記映画でも、視点や俳優で大違い！■□■

『エジソンズ・ゲーム』では、テスラはエジソン、ウェスティングハウスに続く3番手の存在だった。しかし、イーサン・ホークがテスラを演じる本作では、テスラが主役。今まで60作も続いているNHK大河ドラマでは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が何度

も登場しているが、作品によって、俳優によって、視点によって彼ら3人の扱いはさまざま。つまり、同じ人物の伝記ドラマでも、視点や俳優によって大きく違うわけだ。

本作におけるテスラの伝記は、大財閥、J・P・モルガン（ドニー・ケシュウォーズ）の娘、アン（イヴ・ヒューソン）の視点から、アンの子役で構成されているが、さて、本作が描くテスラの人物像は？

### ■□■この天才の資質は孤高・異端・狂気の3拍子！■□■

『エジソンズ・ゲーム』でも、発明王・エジソンの下で働くテスラが人遣いの荒いエジソンにいびられる（？）ストーリーが登場していたが、それは本作でも同じ。また、独立したテスラが、交流派のウェスティングハウスと組み、1893年のシカゴ万博でエジソンを叩きのめすストーリーも史実だから、当然それも本作でも同じ。本作が面白いのは、大財閥、J・P・モルガンの娘・アンを目を通して、ある時は彼女の憧れの存在だったテスラの実像を描き出そうとしたことだ。近時、日本でもノーベル賞を受賞した科学者が相次いで登場しているが、私が気に入らないのは彼らが意外におしゃべりなこと。それに対して、本作に見るテスラはとにかく無口だから、私と同じように財閥の令嬢・アンもそれが気に入ったらしい。もっとも、テスラの方はそんな女心を理解する能力は全くないから、さて、2人の仲は？

また、本作では、エジソンとテスラが舐めていたソフトクリームをぶつけ合いながら決裂していく面白いシークエンスが、アン目から2度も描かれるので、それにも注目！日本では男の甲斐性は昔から飲む・打つ・買うの3つとされていたが、本作が描く天才・テスラの資質は孤高・異端・狂気の3拍子。これはその1つか2つを備えていれば、それだけで十分トップになったり、逆に弾き飛ばされたりする資質。例えば、宮本武蔵は孤高と異端を備えていたが、狂気の面は少なかったはず。したがって、この3拍子をしっかり備えているテスラなら、本業の発明はできても、恋はもちろんムリ。しかし、発明をモノにするために不可欠な特許申請や投資家探しの能力は？

### ■□■特許申請は？投資家探しは？新研究は？■□■

『エジソンズ・ゲーム』は、1882年にニューヨークで自ら発明した電球を電気で光らせるイベントで大成功を収めるエジソンの姿から物語が始まった。そして、エジソンの直流に対して、交流の優位性を主張し、1886年に交流式の実演会を成功させたウェスティングハウスとの対立を深めていくストーリーが描かれた。その後、新聞記者を集めて発明を盗まれたと発表したエジソンは、「ハゲタカ」とウェスティングハウスを中傷し、「交流」は感電しやすく「死を招く」と攻撃したため、世紀の“電流戦争”が激化したが、そこでは特許をどのように取るかが大きなポイントになっていた。

本作が描く“直流 vs 交流戦争”を巡る人的構成とその論点は当然そんな『エジソンズ・ゲーム』と同じだ。しかし、本作では当初エジソン側についていたJ・P・モルガンが、途中からテスラ側に軸足を移していくところが興味深いので、それに注目！“直流 vs 交流戦

争”における、ウェスティングハウスとそれに協力したテスラ陣営の勝利と、エジソン陣営の敗北は明らかになったが、その後のエジソンとテスラの進路は如何に？そして、J・P・モルガンをはじめとする投資家たちが、その次に投資するテーマはナニ？その投資先は？

直流と交流の違いすら正確に理解できない私の頭では、本作終盤からテスラがフロリダに拠点を移動して始める“孤高の研究”の内容を理解することはできないが、その研究内容は？その研究費は？その投資は？

### ■□■この天才の最後は？栄光から没落へ！■□■

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人は、それぞれ歴史に残る偉業を成し遂げたが、その最期は三者三様。志半ばで悲運の最期を遂げたのは信長。“五大老”、“五奉行”に後継ぎ・秀頼の未来を託しながら、結果的に裏切られてしまったのが秀吉。そして、健康に留意し長生きしたおかげで(?)“徳川300年の世”の礎になったのが家康だ。

“直流 vs 交流戦争”に勝利したテスラの電力システムにおける功績は有名だが、彼の発明はラジオ、ラジコン、噴水、電気モーター、点火プラグなど、私たちが今豊かに暮らせる数々のものに及んでいるから、その功績は家康に勝るとも劣らない。しかし、家康にはなかった“狂気”を備えていたテスラの最後は？本作はそれを明確に描いていないが、孤高・異端・狂気の3拍子を揃えた天才・テスラの最期は“栄光から没落へ”だったことをしっかり確認しておきたい。

2021（令和3）年4月9日記